

病院の 実力

* 奈良編 45

今回の「病院の実力」は「認知症」を特集する。

認知症は、国内では240万人を超える患者がいると言われる、身近な病気だ。加齢による物忘れとは違い、脳の機能が病的に破壊されることで、記憶力や判断力などが急激に衰え、日常生活に支障を来す。

病院の実力「認知症」

医療機関別2010年治療実績 (読売新聞調べ)

施設名	患者数 認知症の新規	すべての認知症の新規	アリセプトを処方した月平均人数	介護保険意 見書の月平均作成数
秋津鴻池	515	204	約100	58
奈良県 県立医大	339	237	10	14.7
松本ク	97	60	147	10
国・やまと精神	—	27.7	4	60
京都府 洛和会音羽	550	155	10	60
府立医大	343×1	4	10	418
大阪府 大阪市立弘済院	667	240	129	—
和 県立医大	566	300	—	—
	243×2	277	—	—

「ク」はクリニック、「国・」は独立行政法人国立病院機構、「一」は不明または無回答。×1は精神神経科のみ2010年4月～11年3月×2は2010年10月～11年6月。県名の「和」は和歌山県。

* 全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

進行薬で遅らせる

脳全体に萎縮や老人斑というシミが見られる「アルツハイマー型」、脳梗塞や脳出血が原因の「脳血管性」、脳内に異常なたんぱく質がたまる「レビー小体型」が代表的。治すことはできないが、薬で進行を遅らせることはできる。

今回は、日本老年精神医学会、日本認知症学会の専門医のいる施設を調査対象とした。認知症の診断、治療、介護について高度な知識や治療技術を持つのが専門医で、掲

載施設は適切な診療が可能なはずだ。

認知症の半分以上を占めるアルツハイマー型向けの薬はこれまで「アリセプト」しかなかったが、今年、「レミニール」「メモリー」(以上、飲み薬)、「イクセロンパッチ、リバスタッチパッチ」(貼

り薬)が発売され、選択肢が広がった。

一覧表には、①2010年の認知症新規患者数②アリセプトの月平均処方人数③介護保険の主治医意見書の月平均作成数を載せた。

介護保険の意見書は、患者の症状の変化や生活状態、家族の介護状況がわからないと書けない。数の多さは、患者の介護に気を配る施設である一つの目安となる。

と感じてしまう家族もいる。そんな不安を和らげるためにも、じっくりと家族の話を聞くことが必要」と話す。

診察での家族への説明では、今後どのような症状が出そうかなど患者の病状についてだけでなく、介護保険の申請方法などの情報も提供。安心して介護に専念できる環境作りに努めている。

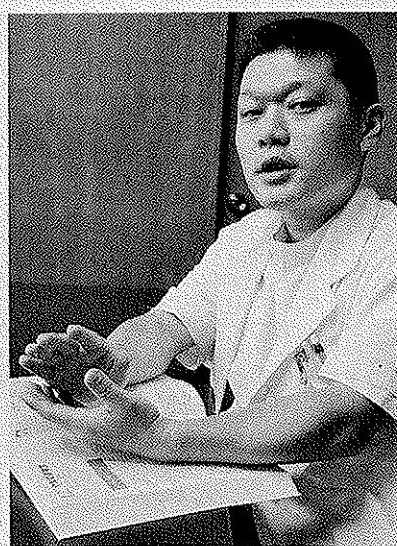
「将来の見通しが持て、それに備えた心構えができる」と、家族の心理的負担は軽くなる。

しかし、あえて家族に負担を求めることもある。何気ない日常の動作が困難になる「失行」などの症状が出始め、着替えに1時間かかるような患者のケース。手助けすれば短時間で着替えさせられるが、なるべく手伝わずに見守り、患者が独力でやるよう家族にアドバイスする。

「患者本人が出来ることは自分でやる方がよい。余分な時間がかかり、介護者には逆に手間になることもあるが、全て介護者任せでは、病状の進行を早めることもあり好ましくない」と話す。

「患者の持つ能力を生かしながら、患者、家族により良い生活を送ってもらったため最善の道を共に考え、サポートしていきたい」と力を込める。

やまと精神医療センター
貴田 智之 精神科医長



「穏やかな生活」サポート

認知症は現在では根本的な治療法がなく、発症すると徐々に進行し続ける。病気の進行で表れる暴力などの症状は、患者の家族を苦しめる。「だから、医師の仕事の一つは、患者本人や家族らが穏やかに暮らせるよう手助けすること」と話す。

診察、面談には時間をかける。やまと精神医療センターの貴田医師は初診時に通常で約1時間、長い時は2時間を費やすこともある。

つきっきりの世話で、外との接点が希薄になってしまいうことも多い認知症患者の介護は、家族の負担が大きい。「介護中に『周りに見放された』

つきっきりの世話で、外との接点が希薄になってしまいうことも多い認知症患者の介護は、家族の負担が大きい。「介護中に『周りに見放された』